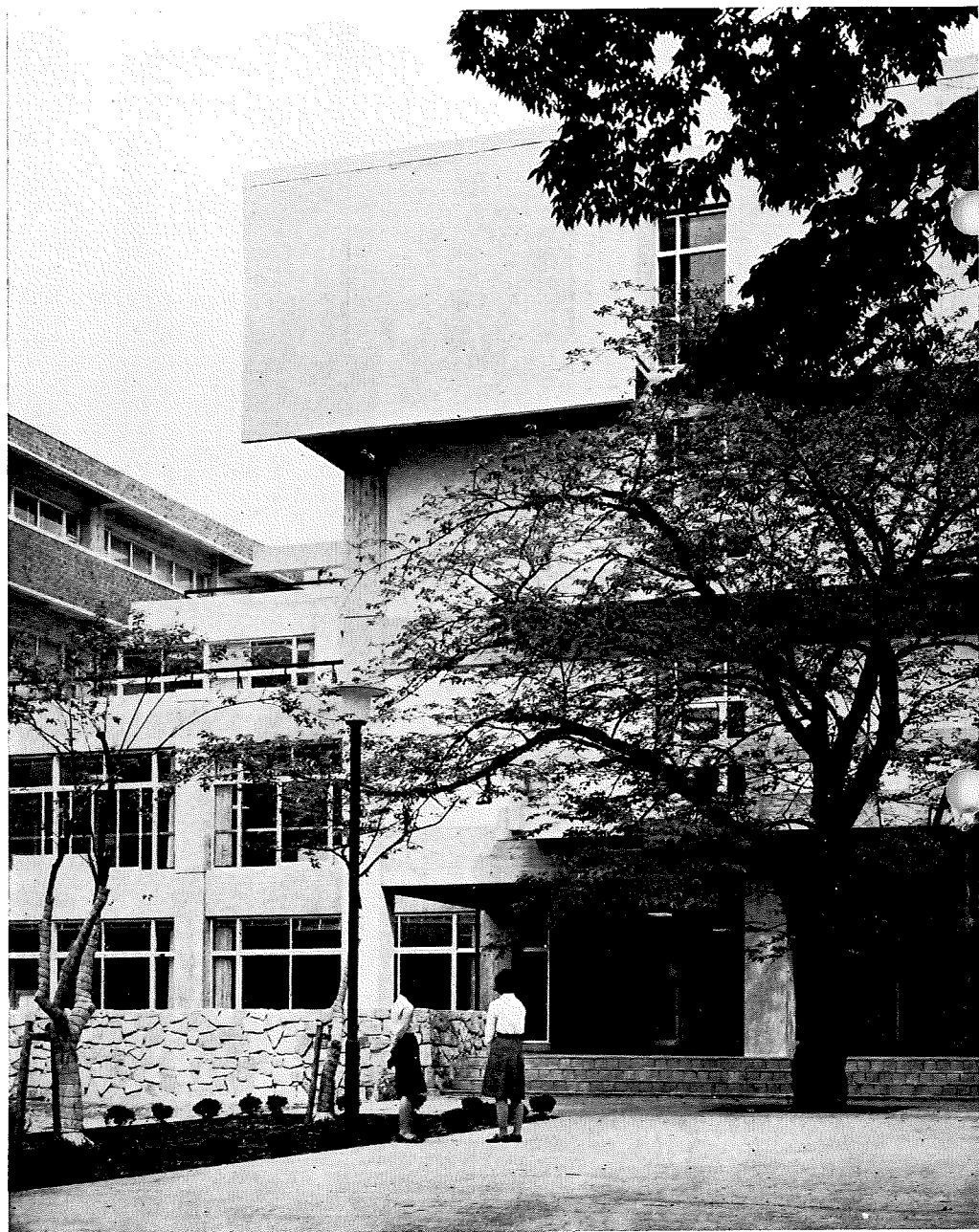
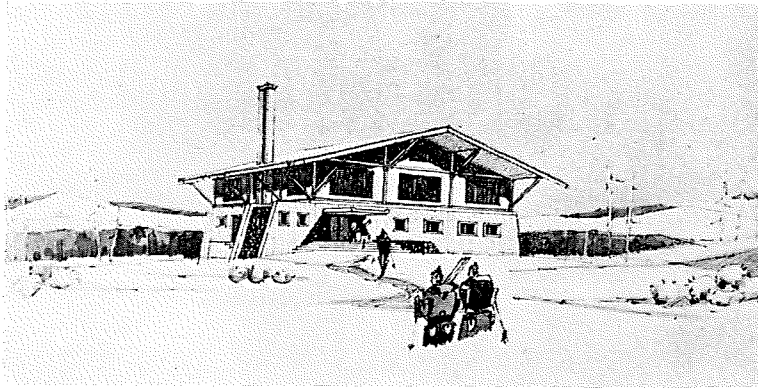


成蹊会誌

1967年7月第

27号





志賀高原寮(熊ノ湯)完成図(昭和42年11月竣工予定)



成蹊会千葉支部総会(千葉市・扇屋デパート)



滑川道夫先生還暦祝賀会(成蹊クラブ)

目 次

高柳賢三先生 弔辞

小笠原光雄

1

新図書館の落成

佐々木昌義

2

成蹊志賀高原寮建設中

5

滑川道夫先生還暦記念会

5

成蹊会近況

6

成蹊学園近況

11

会員近況

16

成蹊会会費・寄付金芳名録

33

物故会員

15

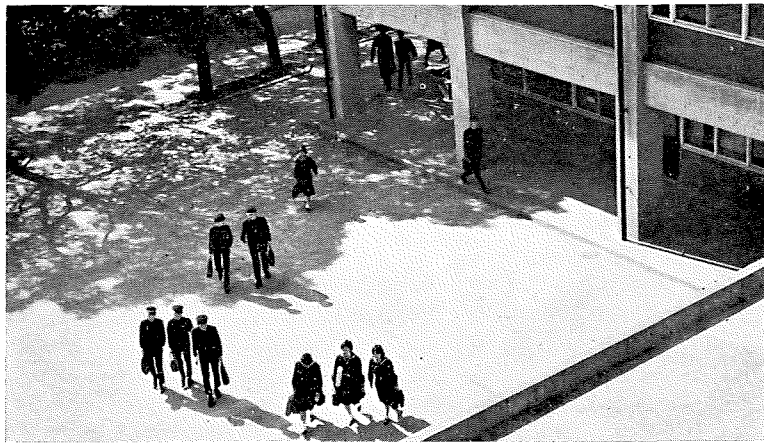
表紙写真 新図書館

口絵写真 学園風景

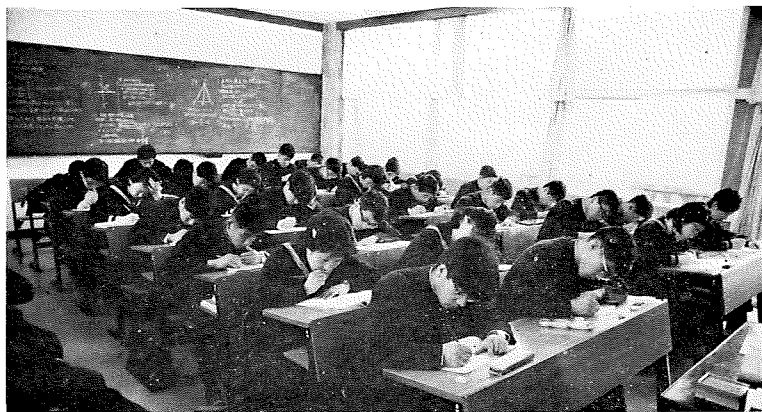
学 園 の 生 活



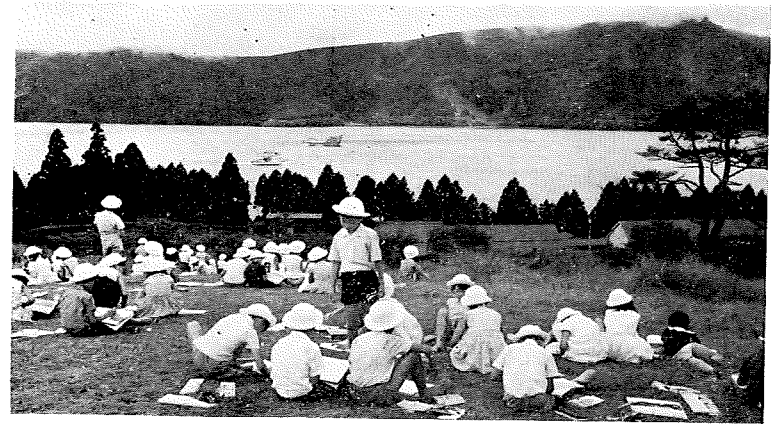
中学校 修学旅行(京都三千院)



高等学校 登校(あまりあわてた様子はありません)



高等学校 教室(よそみや私語はないようです)



小学校 夏の学校(箱根)



小学校 冬の学校(野沢スキー場)



中学校 新入生歓迎会(中学前庭)

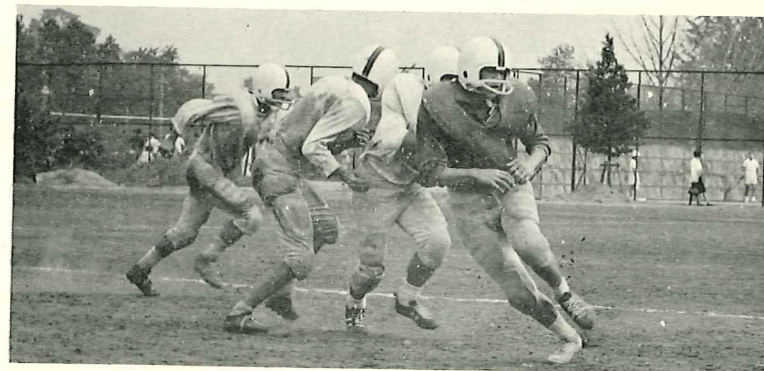


元成蹊学園総長兼学長高柳賢三先生には、欧州出張の帰途、香港の旅舎において、本月十一日遽かに逝去せられました。まことに意想外のこと、夢かと疑われ、痛惜哀悼の至りに堪えません。

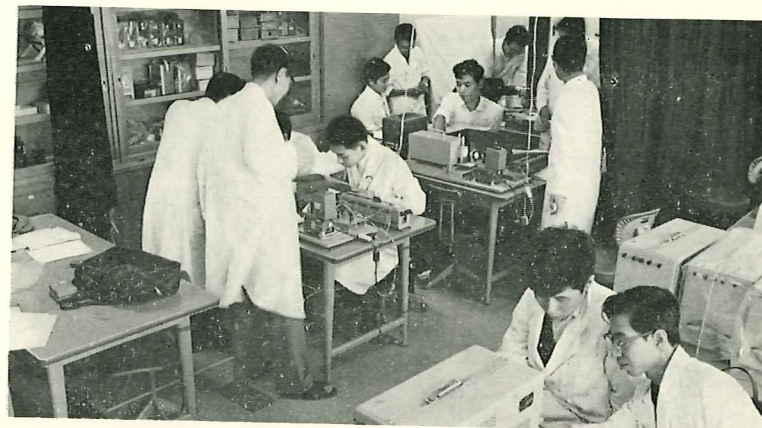
先生はつとに東京大学教授として英法講座を担当せられ、その該博な学識によって、わが国はもとより、海外にも令名が高かったのであります。終戦後、本学園は教育制度の改革にともなう、大学を設けることになりましたが、当時全国一斉に大学の設置が行なわれたため、人材を得ることは甚だ困難で、大学の設置は容易な業ではなかったのですが、こうした時期に、先生は学園の懇請を容れて、その豊富な学識経験をもって、大学の創設に力を尽されたのであります。

昭和二十四年、成蹊大学の発足とともに、先生は学長にご就任、政治経済学部を根柢を培われたのであります。そして個性の尊重と、人格の陶冶という学園教育の伝統を生かし、小学校、中学校、高等学校、大学の一貫教育の完成を期せられました。特に大学は品格高き学問の府としての実態をそなえることを主眼とし、誠実、穩健かつ良識ある指導的人物の育成を目標とせられました。そのためには、不断に教授と学生との学問的、人格的接触と交流とが緊要であるとして、指導教授制とゼミナール必修制とを布かれたのであります。ここに本学の最も大きな特色の基礎が、先生によって樹立せられ、今日に至っても変わるところはないのであります。

弔辞



大学 クラブ活動(アメリカンフットボール)



大学 実験室(工学部)



大学 先生との交歓(本館前庭)